



市長 「コンビニ兄弟」は、門司港レトロとタイアップ企画が行われています。作中のコンビニをイメージしたフォトスポットや、言葉と景色が融合するアート展示など、小説

読んで、訪れて——物語の舞台・門司港へ

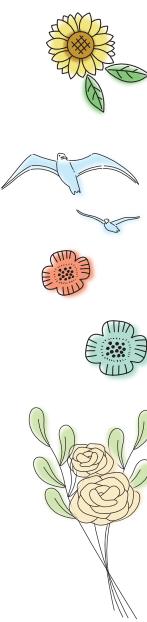
町田 あと大掃除の途中とか。「今じゃない！」と思うけど、出てきた本を読んで続きも探しやつて大掃除終わんないんですよ、それ年末の私ですよ(笑)。

町田 小学生の時にいじめに遭つていて、教室に自分の居場所がない時は、大好きな本を持ってトイレに行つて読んでいました。本の中の希望に救われていたんです。大好きな作家さんの新刊情報を見て、「来月になつたらまた続きを読める」。それを待つことで、いじめに耐えてきました。

町田 町田さんが本を好きになつたきっかけや、本を読み続ける動機は、今のお話ともつながつているんでしょうか。

市長 町田さんが本を好きになつたきっかけや、本を読み続ける動機は、今のお話ともつながつているんでしょうか。

物語は、人を生かし、人を育てる



市長 包容力というか奥行きがあるというか、そういうところを感じられるまちですね。

町田 多くの観光客を迎えている場所だからでしょうか、人と人との距離感もほどよいと思っています。ぼうつとしている時に、「あっちのお店おいしいよ」とか「雨降つてから雨宿りしていきな」とか声をかけてもらつたこともあるんです。

市長 今の時代、孤独を感じたり理不尽さを抱えている人にこそ読んでもらいたいですね。

市長 私も日々忙しくする中で、そこから癒やすために本を読むっていうのが大事な要素になつてますね。試験になると小説を読みたくなるのと似てますよね。

町田 自分が苦手な人でも、好ましく思う一面を持っているかもしれない。深く共感する部分があれば、世界すら変わるかもしれません。そういう、人や世界を見る角度を変えるきっかけをくれるのが物語だとと思うんです。私は物語によって救われたし、心を育てることができた。おこがましいですが、私の読者さんたちにも同じような読書体験をしてもらえたうれしいです。



市長 最後になりますが、2026年、どんな1年にしたいですか。

町田 飛躍の年にしたいです。作家になつて10年になるので、これまでのチャレンジの成果を出したい。これまで以上に質の高い物語を書く年にしたいです。

市長 ゼひ素敵な1年にしていきましょう。ありがとうございます。

2026年の挑戦

町田 門司港のまちの魅力は、書いても書いてまだ書き足りない、まだ3割くらいしか書いていないんじゃないかなと思ってるので、これからも書き続けていきたいです。

市長 ゼひ、多くの方に「コンビニ兄弟」を読んでいただき、ドラマも楽しんでいただきたいです。そして、本やドラマをきっかけに門司港のまちを歩いて、人と人とのつながりや「おせつかいな優しさ」を感じてもらえればうれしいです。

の世界観を体験できる仕掛けが用意されています。

今回の撮影地はここ!

文学館

北九州ゆかりの作家の作品・資料約12万点を収蔵する文化施設。うち約300点を常設展示しています。世界的建築家・磯崎新氏の設計により1974年に建築。シンボルであるステンドグラス(表紙参照)は磯崎氏がデザインしたもので

ます。文学館が実施する林英美子文学賞の受賞者から3名の芥川賞作家が生まれています。



施設情報

小倉北区内4-1 ☎ 571-1505

開9時30分～18時(入館は17時30分まで)

休月曜日(祝・休日のときは開館し翌日が休館)、
12月29日～1月3日



▲詳細はコチラ

★ネット申し込み(ネット)はコチラから▶



★市のホームページはコチラから▶



打ち合わせの合間のひとコマ

Q どんなスタイルで読書しますか?

A 町田さん

座って、横に飲み物を置いて。お風呂では電子書籍を読んでます。

A 市長

どっちかというと寝転び派。ビーズクッションに埋まりながら、あおむけで読んでます。

Q 子どもさんに読み聞かせしますか?

A 町田さん

しようと思ったんですけど、全然ダメでした。ママうるさいって言われて。本人たちが読んでるのを横で見てます。

A 市長

寝る前にやっています。今は「チョコレート戦争」を。自分が子どもの頃に読んでいた本を読んであげられるのがうれしい。



★市のホームページはコチラから▶

